

平成30年度 事業報告書

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

認定特定非営利活動法人 聖地のこどもを支える会

1. 事業実施の状況

平成30年も中東和平は進展どころかさらなる混迷の道を辿ってきた。和平交渉は頓挫したまま、またトランプ大統領によるアメリカ大使館のエルサレム移転、さらにはゴラン高原でのイスラエルの主権承認などによって、紛争解決への道筋はほとんど閉ざされ、「二国家平和共存」の可能性さえも危うくなってきた。イスラエル社会が右傾化する中で、もう一方のパレスチナ社会では、「諦め気分」が蔓延し、「ここでずっとこのままの生活を続けるよりも海外移住をしたい」と言う人が多くなってきたのが気にかかる。

それでも当法人は、政治情勢がどうであれ、常に次世代を担う子どもや若者こそ将来への希望の光となると信じ、「人種・宗教を問わず教育支援をし、青少年の心に《平和の種》を蒔く」という当法人のミッションと目的達成のために、この1年も運営と活動のために最大限の努力をした。

*人材強化：現地スタッフ設置について、目標が達成できていない。現地の教育実情とニーズの把握、連帯事務局や学校との連絡・折衝などの任にあたってもらうためにヤクープ・ガザウィを正式に現地スタッフとする予定だったが、他に大きな責任を持つことになった当人の都合などにより、十分に機能しなかった。

OB/OGによるユースグループは、残念ながらメンバーの定着あるいは引き継ぎがうまくいかず、コンスタントな関係プレイがなかなかできない。青少年交流事業の事前研修や事後研修などについては、非常に協力的で、内容の充実について貢献してくれている。

*財政基盤

－ 経常収益に関しては、今期は20,283千円（1,237千円増、前年度比 6.5%増）と若干増えた。

スタディ・ツアーの参加費収入がそこそこあったことなどが挙げられる。

その反面、支援件数が減少傾向にあるので、来年度の大きな課題となる。

－ 経常支出に関しては、20,376千円（2489千円増、前年度比 14%増）であった。

*支援者・支援金の推移

－ 認定NPO法人が満たすべき要件として、年間3000円以上を寄付した支援者（賛助会員）が100人以上いることが挙げられる。（パブリックサポートテスト）

当法人は、その要件を以下のとおり満たしている。

項目		2016年度	2017年度	2018年度
3000円以上 支援者数 (人)	賛助会員	436	415	406
	正会員	30	30	28
	合計	466	445	434
3000円以上 寄付金額	賛助会員	¥ 9,373,575	¥ 9,519,073	¥ 9,090,488
	正会員	¥ 1,078,000	¥ 2,729,485	¥ 1,442,546
	合計	¥ 10,451,575	¥ 12,248,558	¥ 10,533,034

教育支援事業：支援者の皆様のおかげで、今年度は連帯事務局へ目標額3,000千円に対し、少し超えた3,264千円を送金した。現地からの生のニュースの情報発信を通して現地の教育支援の必要性をより深く理解していただけるよう努力したが、支援者数はほぼ横ばいであった。

里親制度を発足させて10年、里親の数は減少しているのが気がかりである。この制度を充実させるために里子の情報交換などを密にする目的で現地連帯事務局との連携強化を図っている。

青少年国際交流事業：

1. イスラエル・パレスチナ・日本の若者がつくる《平和の架け橋 in 長野》2018プロジェクト

期間は8月5日～8月20日（日本人には8月6日～8月20日）。第一部は長野（8/6～8/13）、信州善光寺玄證院で共同生活と対話。と同時に、ボランティア活動、ホームステイ、国際交流イベントなどで市民と交流。第二部はJICA東京国際センター（8/13～20）、ディスカッションやシェアリングをさらに深め、プロジェクトの締め括りを行った。長野でも東京でも、平和のメッセンジャーとしての自覚を持ち、日本の人々に、各自の平和への決意を発信することを主眼とした。紛争国の若者たちが、日本の若者とともに、共同生活をしながら協力・協働する喜びを味わうこと、いのちの大切さと平和への理解を深めること、国境を越えて育まれた友情をもとに「平和共存への道」を歩み始めること、平和のメッセンジャーとなることなど。本プロジェクトの目標は完全ではなくても何とか達成できた。

毎年メンタリティーや生活習慣の多様性から来るさまざまな問題にぶつかるのは避けがたいが、今年は、時間厳守、インターネットの使用制限など、共同生活に最低限必要な規則の必要性を参加者に理解してもらったことにより、より共同生活を充実させることができたと思う。

特記すべきは、今年初めてガザからの青年を参加者として迎えたことだ。ガザから出るために必要なイスラエル治安当局の許可がおりなかったために、彼は大変な苦勞をしてプロジェクト開始後10日目にやっと日本に到着。また帰路もあらゆる困難に遭遇し、やっとの思いでガザに帰り着いた。それでも彼は数日も日本に来てプロジェクトに参加し、イスラエル・パレスチナ・日本の友だちができたことを非常に喜んでいる。

2. イスラエル・パレスチナスタディー・ツアー《平和を願う対話の旅》

平成31年2月27日から3月10日まで12日間の日程で実施。参加者は、12名（男1人、女9人、プラス現地参加2人）、スタッフ3人。エルサレム・ベツレヘム・テルアビブを中心に、現地の人権団体訪問、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教の聖地訪問、分離の壁や検問所、入植地、難民キャンプなどで、紛争の厳しさを実際に体験した。また幸い各地で現地の人々から生の声を聞くことができ、さらにエルサレムやテルアビブでのホームステイを通じてパレスチナとイスラエルの人々との心の交流ができたことは大きい。将来国際平和構築に関わりたいと願う彼らに、大きなインパクトを与えた旅であった。今年はありがたいことに、現地のOB、OGの協力により、ホストファミリーを比較的容易に確保できた。

普及啓発事業

今年度もイスラエル・パレスチナ紛争の実情を把握するため、いろいろな情報収集活動を行い、日本の支援者に現地の人々の厳しい社会状況を紹介する講演会や報告会を開催。ホームページ・ニュースレターなどを通じて、年4回（2, 5, 8, 11月）に延べ、支援者約3200人、および約2000団体に送付した。認知度アップのために作成した団体紹介のためのリーフレット配布、HPの継続的なリニューアルも継続的に行っている。

2. 事業に関する事項

(1) **教育支援事業**

事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲と人数	事業費(千円)
今年度は教育支援金として目標額を超える3,264千円を送付できた。連帯事務局ばかりでなく、子どものための各種福祉施設への寄付金も含まれる。「里親制度」に関して、里親と里子との「顔の見える」関係を築くことが今の体制(特に連帯事務局の体制)では非常に難しいことが分かってきた。予定の現地スタッフとの協力関係がまだ明確になっていないことが課題である。	8月 1月 3月	法人事務局	3名	イスラエル・パレスチナの子どもたち 約150名	3,264

(2) **青少年国際交流事業**

1) **イスラエル・パレスチナ・日本の若者がつくる《平和の架け橋in長野》プロジェクト**

事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲と人数	事業費(千円)
プロジェクト立ち上げと協力体制確立 ：2018年度の青少年国際プロジェクトは、長野と東京で実施した。共催は例年のようにヨハネ・パウロ2世財団。後援はJICAと駐日パレスチナ総代表部と駐日イスラエル大使館。また長野での宿泊と活動については長野善光寺玄證院のご協力をいただいた。	4～6月	法人事務局	15名	被災者 不特定多数 プロジェクト参加者	4,660
プロジェクト資金調達 ： ◇ 助成金：三菱UFJ国際財団の助成金：700,000円 ◇ 支援者からのプロジェクトに対する支援金。 ◇ チャリティイベント準備(イスラエル・パレスチナ・日本友好のつどい)：家田紀子氏(ソプラノ)、瀧田亮子氏(ピアノ) ◇ 講演会：NHK解説委員出川展恒氏の講演会準備。	1～7月	法人事務局	15名	一般市民と学生 不特定多数 イベント参加者 約220名	
プロジェクト参加者募集と選出 ： ☆ 日本側：インターネットおよびメールで参加者募集。小論文と面接により6名選出(男2,女4)。 ☆ イスラエル・パレスチナ側：ヨハネ・パウロ2世財団の協力により、募集、選出。イスラエル・パレスチナから9名+引率者1名。 *日本では男子学生の応募者が少ないのが課題。 *現地では、現地情勢の影響で、公に広く募集をかけることができないのが悩みである。	4～6月	法人事務局 エルサレム	7名	日・イ・パ参加学生 およびリーダー・引率者 計20名	
事前研修 ： ☆ 日本のプロジェクト参加者のために：イスラエル・パレスチナ紛争の現状を学んでもらった。(事前課題あり) ☆ イスラエル・パレスチナ参加者のために：同様に日本について、また「平和」のための本プロジェクトに参加する意義について学んでもらった。しかし、エルサレムで当日起こった緊急事態のために、研修は不完全に終わった。	日本 6月23日 ～24日 イス・パレ 5月13日 6月10日 (日帰り)	JICA 東京国際センター エルサレムと テルアビブ	9名	日・イ・パ参加学生 およびリーダー・引率者 計20名 大人参加者 数名	
チャリティ・イベント ：(資金調達と広報のため) ◇ (イスラエル・パレスチナ・日本友好のつどい)家	7月16日	四谷若葉	20名	参加者 80名	

<p>田紀子氏（ソプラノ）、瀧田亮子氏（ピアノ）および、パレスチナ料理レストラン〈アルディワン〉の協力を得て、音楽とビュッフェの集いを開催した。</p> <p>◇ 講演会：「混迷する中東情勢を読む」 NHK解説委員：出川展恒氏 課題は、チケット販売に非常に労力があること。</p>	7月1日	修道院 吉祥寺		参加者 120名
<p>「平和の架け橋プロジェクト」実施</p> <p>1. 共同生活：長野/東京での2週間の共同生活の中で、「平和共存」の可能性を体験し、どんな相手をも同じ人間として受け入れ理解し合うことを学んだ。もちろんその途上で様々な問題も発生。それを乗り越えるための互いの努力は貴重な体験であった。</p> <p>2. 国際文化交流：長野市民との国際文化交流（歌、ダンス、料理など）、ホームステイ、ボランティア活動などを実施。</p> <p>3. ワークショップと対話：長野での交流やボランティア活動の体験、紛争体験を共有し、平和構築の具体的な「道」について互いに意見交換をした。</p> <p>5. 成果の発信：長野では、市民との対話、文化交流をおこない、若者たちはそれぞれ平和のメッセージを発信した。東京でも同じように、平和のために働く決意を表明できたのは大きな成果の一つだと思う。</p> <p>6. ガザからの青年の参加：本プロジェクトでは、初めてのガザからの参加者。8月15日にやっと到着。それでも彼の参加は、彼にとっても他の参加者にとってもとても有意義だった。</p>	8月5日 ～20日 (日本人は 8月6日～ 20日)	長野 善光寺 玄證院 JICA 東京国際 センター	30名	長野市民 日・イ・パ 参加学生 および リーダー・引率者 計20名 大人参加者 数名
<p>事後研修：</p> <p>日本では、プロジェクト全体を振り返り、得た実りを深め、次の行動につなげるための事後研修を行った。イスラエル・パレスチナでは、安全上の問題から、再び全員が集まることはできなかった。</p>	9月	JICA 東京国際 センター エルサレム	6名	参加者10名
<p>報告書作成およびオリーブの木発行：</p> <p>本プロジェクトの総括、実施のあらまし、参加者の感想、収支決算などについての報告書を作成、関係団体やプロジェクト支援者にお送りした。</p> <p>課題は、日本語と英語の2カ国語で作成するため、時間と手間がかかること。</p>	9～11月	法人 事務局	10名	プロジェクト参加者 関係団体 支援者約1500名

2) 「平和を願う対話の旅」スタディ・ツアー（2019年2月27日～3月10日）

事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲と人数	事業費(千円)
<p>スタディ・ツアー参加学生の募集と選出：</p> <p>☆ 募集要項作成・HPやインターネットを利用して募集した。</p> <p>☆ 応募者の面接および選出 計10名 他に現地から2名が本ツアーに参加した。</p>	11月 ～12月	法人 事務局 JICA 東京国際 センター	5名	参加学生 12名 大人3名	4,324
<p>スタディ・ツアー参加学生の事前研修：JICA</p> <p>☆ イスラエル・パレスチナ紛争の歴史と現実、それぞれの社会が抱えている問題を学ぶ。事前に与えられた課題の研究発表、ワークショップなど。</p>	1月19日～ 20日 2月9日	JICA 東京国際 センター	5名	事前研修 参加学生大人 10名 OB/OG 数名	

<p>スタディ・ツアー「平和を願う対話の旅」実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆ 分離の壁、検問所、家屋破壊、難民キャンプ、入植地など紛争の実態にふれた。学校、福祉施設などを見学して教育事情を理解。人権団体で話しを聞くことにより、人々の苦しみを知る。紛争に苦しむ双方の人々とのふれ合いを大切にしました。 ☆ エルサレム、ナザレトでのホームステイを通して現地の人々の生活にふれ、彼らのホスピタリティに感動。 ☆ 現地の若者をミーティングに招待し、交流や対話の場を設けた。 	2月27日 ～ 3月10日	イスラエル パレスチナ	5名	日本人学生 12名 大人6～7名 イスラエル・パレスチナの学生約30名 および その家族
<p>事後研修：スタディツアーのフィードバック、各自にとっての成果の確認と共有。今後平和構築に取り組むための決意表明。</p>	3月23日 ～24日	JICA 東京国際センター	5名	参加学生大人 16名 OB/OG 数名
<p>報告書作成：参加者の感想を支援者にお伝えするためにその抜粋をオリーブの木No. 71に掲載する。またHPにも掲載。</p>	5～6月	法人 事務局	3名	スタディ・ツアー 参加者 および支援者

(3) 普及啓発事業など

事業内容	実施期間	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲と人数	事業費(千円)
<p>本会紹介パンフレットおよびニュースレター「オリーブの木」を発行配布し、本会の活動、並びに現地の子どもの現状を報告した。</p>	5月 8月 11月 2月	法人 事務局	20名	全国支援団体 および支援者 約1,500名 他不特定多数	1,375
<p>HPに随時本会の活動内容を掲載し、イスラエル・パレスチナ紛争のホットニュースを正義と公正と和解を目指す立場から紹介した。当法人のHPを継続的にリニューアルすることができた。これからも改善を続ける。目標としていた英語版HPは人材不足のため今年も進捗がなかった。来年度の課題となる。SNSなどインターネット上の発信にも力を注いだ。</p>	年間常時	法人 事務局	5名	一般市民 不特定多数	
<p>国際協力NGOセンター(JANIC)、JICA Partner、NGO Network Japan、その他を通じ、NGO/NPO活動に関する情報収集やWEB上での広報活動、および募金活動を行った。</p>	年間常時	法人 事務局	3名	一般市民 不特定多数	
<p>インターネット、メディアを通じて、イスラエル・パレスチナ情勢に関連する情報の収集活動を行った。</p>	年間常時	法人 事務局	3名	一般市民 不特定多数	
<p>ヤクブ・ガザウィによるパイプ・オルガンコンサートを各地の教会で3回開催。入場料は無料。募金としていただいたお金は教育支援金の一部として使用した。聴衆の方に当法人の主旨や活動の紹介をするパンフレットやニュースニュースレター「オリーブの木」を配布する機会となった。</p>	9月2日 9月13日 9月16日	仙台 東京 横浜	6名	コンサート 聴衆 約400名	

活 動 計 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会

自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日

【経常収益】

【受取会費】

正会員受取会費	396,000	
賛助会員受取会費	7,676,342	8,072,342

【受取寄付金】

受取寄付金	2,884,695	
施設等受入評価益	1,620,000	
ボランティア受入評価益	120,000	4,624,695

【受取助成金等】

受取助成金	429,384	
受取補助金	700,000	1,129,384

【事業収益】

参加料金収益	5,798,220	
自主事業収益	472,000	6,270,220

【その他収益】

受取 利息	11	
為替 差益	10,301	
雑 収 益	176,600	186,912

経常収益 計

20,283,553

【経常費用】

【事業費】

(人件費)

給料 手当(事業)	2,033,200	
ボランティア評価費用	120,000	
人件費計	2,153,200	

(その他経費)

業務委託費	299,160	
諸 謝 金	1,483,234	
印刷製本費(事業)	430,717	
会 議 費(事業)	54,631	
旅費交通費(事業)	976,950	
旅費海外(事業)	4,044,888	
車 両 費(事業)	72,759	
通信運搬費(事業)	471,401	
消耗品 費(事業)	435,640	
賃 借 料(事業)	210,642	
施設等評価費用	180,000	
保 険 料(事業)	10,800	
支払手数料(事業)	16,038	
支払助成金	3,264,423	
支払寄付金	218,762	
為替 差損	1,563	

その他経費計

12,171,608

事業費 計

14,324,808

活動計算書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会

自 2018年 4月 1日 至 2019年 3月31日

【管理費】			
(人件費)			
役員 報酬	2,340,000		
給料 手当	758,800		
法定福利費	441,424		
通勤費	210,032		
人件費計	3,750,256		
(その他経費)			
印刷製本費	10,800		
会議費	8,744		
旅費交通費	48,084		
通信運搬費	204,752		
消耗品費	267,687		
修繕費	13,000		
水道光熱費	48,946		
事務所家賃評価費用	1,440,000		
広告宣伝費	56,787		
新聞図書費	1,256		
諸会費	50,000		
租税公課	1,200		
支払手数料	149,753		
その他経費計	2,301,009		
管理費計		6,051,265	
経常費用計			20,376,073
当期経常増減額			△ 92,520
【経常外収益】			
経常外収益計			0
【経常外費用】			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			△ 92,520
経理区分振替額			0
当期正味財産増減額			△ 92,520
前期繰越正味財産額			2,541,479
次期繰越正味財産額			2,448,959

【活動計算書の注記】 自主事業収益には、イベント収益を含む
 施設等受入評価益及び施設等受入評価費用は、 からの事務所無償提供分の評価額を同額計上

貸借対照表

特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会
全事業所

[税込] (単位:円)
2019年 3月31日 現在

資 産 の 部		負 債 ・ 正 味 財 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未 払 金	904,434
現 金	187,926	前 受 金	358,000
現金外貨	244,773	短期借入金	13,729
郵便貯金	1,858,913	預り金	50,309
普通預金	978,674	流動負債合計	1,326,472
現金・預金計	3,270,286	負債合計	1,326,472
(有価証券)		正 味 財 産 の 部	
有価証券	44,221	前期繰越正味財産	2,541,479
有価証券計	44,221	当期正味財産増減額	△ 92,520
(その他流動資産)		正味財産合計	2,448,959
前払費用	34,454		
立替金	27,970		
短期貸付金	398,500		
その他流動資産計	460,924		
流動資産合計	3,775,431		
資産合計	3,775,431	負債及び正味財産合計	3,775,431

【貸借対照表の注記】 短期貸付金：インターネット経由寄付金の内当会に未入金分
 現金外貨：保有米ドル及びイスラエルシケル期末評価額
 立替金：諸謝金源泉徴収分立替
 有価証券：商品券及び郵便切手
 前払費用：翌期事業の費用支出
 未払金：役員報酬及び給与の翌月支給額等
 前受金：翌年度事業への寄附金受領額
 短期借入金：役員立替当期費用の未払額
 預り金：源泉徴収預り金

財 産 目 録

特定非営利活動法人聖地のこどもを支える会
全事業所

[税込] (単位: 円)
2019年 3月31日 現在

【流動資産】

(現金・預金)

現 金	187,926
現金外貨	244,773
郵便 貯金	1,858,913
普通 預金	978,674
現金・預金 計	3,270,286

(有価証券)

有価 証券	44,221
有価証券 計	44,221

(その他流動資産)

前払 費用	34,454
立 替 金	27,970
短期貸付金	398,500
その他流動資産 計	460,924

流動資産合計

資産合計

3,775,431

3,775,431

《負債の部》

【流動負債】

未 払 金	904,434
前 受 金	358,000
短期借入金	13,729
預 り 金	50,309
流動負債合計	1,326,472

負債合計

1,326,472

1,326,472

正味財産

2,448,959

【財産目録の注記】

短期貸付金：インターネット経由寄付金の内当会に未入金分
現金外貨：保有米ドル及びイスラエルシェケル期末評価額
立替金：諸謝金源泉徴収分立替
有価証券：商品券及び郵便切手
前払費用：翌期事業の費用支出
未払金：役員報酬及び給与の翌月支給額等
前受金：翌年度事業への寄附金受領額
短期借入金：役員立替当期費用の未払額
預り金：源泉徴収預り金

平成30年度 年間役員名簿

平成30年 4月 1日から 平成31年 3月 31日まで

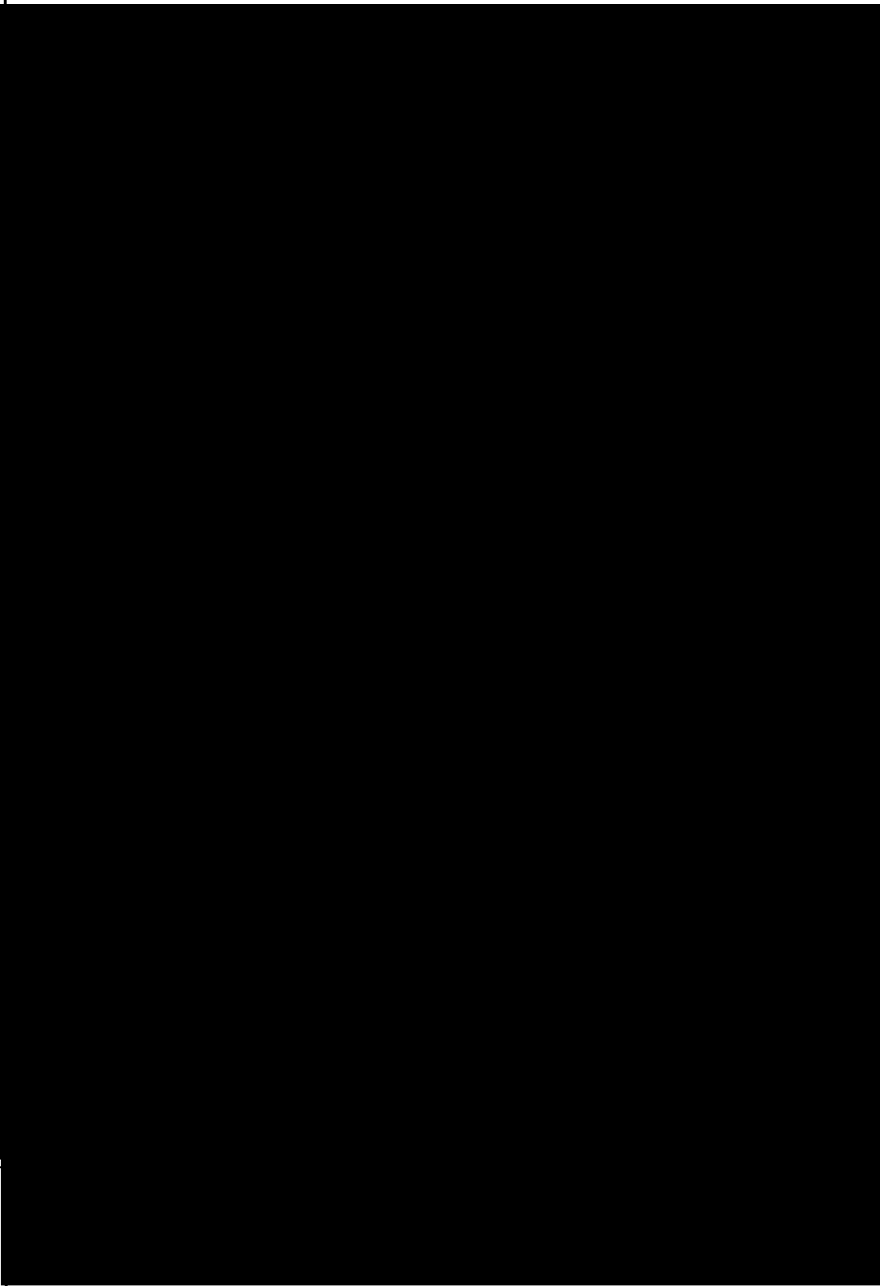
特定非営利活動法人 聖地のこどもを支える会

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事	井上 弘子		平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日	平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日
理事	野口 裕之		平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	中山 夕里亜		平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	田制 則子		平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	佐藤 克裕		平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	村上 宏一		平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	福島 貴和		平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
理事	平木 朋世		平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日
監事	佐多 保彦		平成30年4月1日 ～ 平成31年3月31日	年 月 日 ～ 年 月 日

社員のうち10人以上の者の名簿

平成 31年 3月 31日現在

特定非営利活動法人 聖地のこどもを支える会

	氏 名	住 所 又 は 居 所
1	井上 弘子	
2	磯部 雅子	
3	山田 康子	
4	倉田 昌子	
5	小西 一枝	
6	小西 羊一	
7	佐多 保彦	
8	中山 宏	
9	野坂 静子	
10	横道 昭光	
11		
12		